

高規格救急自動車

仕 様 書

令和2年度

光地区消防組合消防本部

目 次

第1章 総則

- 1 目的
- 2 概要
- 3 法令等の遵守
- 4 提出書類
- 5 検査
- 6 手続き等
- 7 保証期間
- 8 納入について

第2章 仕様

- 1 救急車本体の形状
- 2 主要諸元
- 3 艤装関係

第1章 総則

1 目的

この仕様書は、光地区消防組合消防本部（以下「消防組合」という。）が令和2年度に整備する高規格救急自動車（以下「救急車」という。）について必要な事項を定める。

2 概要

- (1) 救急車は、令和2年4月1日以降に公表製作された新規製品とすること。
- (2) 別表1に示す附属品及び取付品（以下「附属品等」という。）は最新型のものとし、契約後から納入するまでの間にメーカー等によるバージョンアップ等の新開発がなされた場合は、その性能が優れていると認められるものについては、新開発されたものを納入すること。
- (3) 納入者は、本仕様書をよく検討し十分熟知の上契約するものとし、契約後における一切の疑義については、消防組合の指示を得ること。
- (4) 消防組合と納入者との協議により、本仕様書に変更が生じたときは、納入者は変更理由書及び必要な図面を付して消防組合の承認を得ること。

3 法令等の遵守

救急車は、次に掲げる法令等に適合するものであって、緊急自動車としての承認が得られるものとする。

- (1) 道路運送車両法（昭和26年法律第185号）
- (2) 道路運送車両の保安基準（昭和26年運輸省令第67号）
- (3) 救急業務実施基準（昭和39年自消甲教発第6号）
- (4) 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（昭和35年法律145号）

4 提出書類

- (1) 納入者は、救急車の製作前に消防組合担当者と製作上の細部について打ち合わせを行い、次の書類を各2部提出し、消防組合の承認を得るものとする。

- ア 製作工程表
- イ 製作概要図
- ウ 諸元明細表
- エ 艀装図面（収納庫及び収納棚等）
- オ 電気配線図（車両関係、艀装関係）
- カ 資器材等の室内整備取付け図
- キ 酸素配管図
- ク 無線配線図
- ケ その他消防組合が指示するもの

- (2) 納入者は、納入に際し次の書類を製本し提出するものとする。

- ア 自動車取扱説明書 2部
- イ 附属品等取扱説明書 2部
- ウ 改造自動車等検査結果通知書 1部
- エ 製作概要図 2部
- オ 標準装備以外の装備取付け図面 1部

カ 整備要領書 2 部

キ 救急用自動車届出確認書 1 部

ク 保証書 1 部

5 検査

救急車納入時に完成検査を行うものとし、消防組合が指定する日時・場所において、救急車、附属品等について消防組合担当者が検収するものとする。また、検査に必要な測定機器等は納入者側で準備するものとする。

6 手続き等

- (1) 緊急自動車の登録及び中国運輸局山口運輸支局の行う新規登録検査後に納入することとし、新規登録に係る費用は納入者が負担すること。
- (2) 改造又は変更部分の検査に要する費用は、納入者が負担すること。
- (3) 自動車損害賠償責任保険及び自動車重量税、リサイクル料は消防組合が負担する。

7 保証期間

- (1) 救急車の保証期間は、完成検査に合格した日から1年間とする。ただし、シャシ、附属品等でメーカーが1年以上の保証期間を定めている場合は、その期間とする。
- (2) 保証期間に限らず設計不良、製作及び材質不良等に起因する不具合が生じた場合は、納入者が無償で部品の取替え又は修理を行うこと。

8 納入について

- (1) 納入者は、納入時に専門的知識を備えた技術員等を派遣し、救急車及び附属品等の点検整備、使用方法について十分な説明を行うこと。また、これにかかる費用については納入者が負担すること。
- (2) 納入者は納入に際し、救急車及び附属品等の各部について十分な点検整備を行うと共に、使用燃料、バッテリー等は全て満量状態にすること。
- (3) 納入数量 1 台（附属品等を含む。）
- (4) 納入場所 山口県光市光井六丁目 16 番 1 号 光地区消防組合消防本部
- (5) 納入期限 令和3年2月28日（新型コロナウイルス感染症の影響による場合に限り、令和3年3月31日までの期日超過を認める。）

第2章 仕様

1 救急車本体の形状

- (1) 車両本体（以下「車両」という。）は全有蓋で密閉式構造のものであり、形状はハイルーフ型とする。
- (2) 車両の構造は常時登録された車両総重量の状態での振動、衝撃等を十分緩衝できる構造とし、あらゆる走行条件に対して安全で、かつ、安定性を有するものであること。

2 主要諸元

車両の主要諸元は、次に掲げるものとする。

(1) エンジン

- ア 使用燃料 ガソリン
- イ 総排気量 2,400cc 以上
- ウ 最高出力 100 k w / 4,800rpm 以上

(2) 駆動方式 4 輪駆動方式

(3) 変速装置 オートマチック

(4) ステアリング パワーステアリング

(5) 車両寸法

- ア 全長 5,700 mm 以内
- イ 全幅 2,000 mm 以内
- ウ 全高 2,550 mm 以内

(6) 患者室寸法

- ア 室内長 3,200mm 以上
- イ 室内幅 1,600mm 以上
- ウ 室内高 1,800mm 以上

(7) 最小回転半径 6.5m 以内

(8) 定員 7 名以上 9 名以内

3 機装関係

(1) 一般事項

- ア 機装にあたっては、最新の技術を導入し、堅牢耐久性に富み、操作の簡便性及び救急業務に適した性能が発揮できること。また、維持管理を簡単に行うことができ、経済的であること。
- イ 機装の構成材は、日本産業規格品又はこれと同等以上のものであること。
- ウ 緩衝装置は、救急隊員の活動に支障を来さない十分な性能を有するものであること。
- エ 配線は、天井及び壁体内等に隠蔽配線とし、電子機器等に障害を生じないような処理を施すこと。また、各機器の取付け位置まで余裕を持って配線すること。
- オ 無線障害を防止するため、アースボンディングを行うこと。
- カ 車両のスライドドア及び車両後面のドアは、半ドア状態で自動的に閉鎖する装置を備えること。（オートクロージャ等）
- キ 消防組合が準備する訓練旗ポールを車体左側の高い位置に取り付けることができる構造とすること。なお、旗立てはネジ固定式とすること。

- ク 左右に大型サイドミラーを取り付け、助手席側には補助ミラーを取り付けること。
- ケ 車両後面に昇降用リアステップを取り付けること。なお、ストレッチャーが接触する部分には、プロテクター保護を講じること。
- コ サイドステップ及び昇降用リアステップにアルミ縞板による傷付防止策を講じるとともに、上面に滑り止め処置を講じること。
- サ リアバンパーにアルミ縞板による傷付防止策を講じること。
- シ 運転席及び助手席乗降口には、アルミ縞板による傷付防止策を講じるとともに、滑り止め処置を講じること。
- ス 車両前面中央に直径 150 mmの消防章を取り付けること。
- セ 消防組合が指定する車外から取り外し可能な位置にレスキューセット（バール、万能斧、ガラスカッター、シートベルトカッター付きガラスハンマー）を取り付けるとともに、夜間にレスキューセットを照らす照明を装備すること。
- ソ 車両左右両側フロントドアにサイドバイザー（ドアバイザー）を取り付けること。
- タ 音声式のバックブザー（解除スイッチ付）を取り付けること。
- チ 車両後面にハイマウントストップランプを取り付けること。
- ツ 運転室内の運転手が視認しやすい位置にカーナビゲーションを取り付けること。
- テ 車両後面にカメラを取り付け、走行用のシフトレバーが「R」レンジに入った場合又は後方モニターONの場合にカーナビゲーション用モニターで車両後方の映像が確認できること。
- ト ヘッドライトは、ディスチャージ等の高輝度のものとする。
- ナ 車両前面の左右にフォグラмпを取り付けること。
- ニ 車両後面ドアの開放時に後続に注意を促すための、点滅式停止表示灯を当該ドア付近に取り付けること。
- ヌ 後輪付近に（左右）にガード付き路肩灯を取り付け、スモールランプと連動させること。なお、運転室にメインスイッチを取り付けること。
- ネ 冷暖房装置を設けること。（患者室を含む。）
- ノ 電装品は無線障害のないものを使用すること。
- ハ 「P」レンジ以外のシフトレバーで運転席ドアを開けたときに、警報音を発する装置を取り付けること。

（2）バッテリー等

- ア バッテリー及びオルタネーターは、救急車及び積載する資器材等の機能を十分発揮できる容量並びに出力とすること。
- イ レギュレーターは、オルタネーターに適合した容量とすること。
- ウ 外部電源
 - （ア）外部電源入力用コンセントから、次に電源供給できる構造とすること。
 - a DC12V シガーライター型コンセント（資器材等への電力供給）
 - b AC100V コンセント（資器材等への電力供給）
 - c 患者室蛍光灯
 - d 車両バッテリー（全自動電子バッテリー管理器取付け）

(イ) 外部電源入力時にエンジンスタートをした場合、ブザー等の警告音を発するとともにエンジンが作動しないような装置を取り付けること。

(ウ) 外部電源入力用コンセントはマグネット式とし、防水対策を施し、車両外部から消防組合が準備する専用ケーブル（パナソニック製 WCH1720）が接続できる構造とすること。

エ 十分な能力を有する電圧変換用インバーター（100V 変換）を患者室に取り付けること。

オ コンセント（DC12V、AC100V）は、必要数を患者室内の各資器材等取付け位置付近に設置し、さらに予備コンセント（DC12V、AC100V）各 2 口を患者室内の有効な位置に取り付けること。（詳細については別途協議。）

カ バッテリーの電圧低下を防止する自動式のアイドルアップ装置を設けること。

(3) サイレン等

ア サイレンは、「救急自動車に備えるサイレンの音色の変更について」（昭和 45 年消防防第 337 号通知）「救急自動車に備える電子サイレンの概要」に適合するものであること。

イ 電子サイレンは、音声内蔵型のピーポー音、ウー音の 2 音で拡声装置付とし、アンプを運転室の操作容易な位置に取り付けるとともに、ウー音用スイッチ（切替スイッチ式）を運転席及び助手席の操作容易な位置に取り付けること。なお、音声メッセージの内容は、概ね次のとおりとする。

(ア) 「救急車が交差点に進入します。ご注意ください。」

(イ) 「救急車が通ります。進路を譲ってください。」

(ウ) 「左へ曲がります。ご注意ください。」

(エ) 「右へ曲がります。ご注意ください。」

(オ) 「バックします。ご注意ください。」

(カ) 「ドクターヘリが着陸します。着陸・離陸の際は、大変危険です。砂などが飛散しますので、窓を閉め飛散物に注意してください。」

(キ) 「ご協力ありがとうございました。」

※ (ア)、(イ) のスイッチについては、助手席・運転席の操作容易な位置に取り付けること。

※ (ウ)、(エ) についてはウインカー連動とすること。

※ (オ) については「R」レンジへのシフトレバー操作時に連動とすること。

※ (カ)、(キ) についてはマイクスイッチに組み込むこと。

(4) 赤色警光灯等

ア 車両前面上部ルーフに大型散光式警光灯（LED 式）を取り付けること。

イ 車両後面上部ルーフの左右に大型散光式警光灯（LED 式）を取り付けること。

ウ 車両後面ドア上部の左右に補助点滅灯（LED 式）を取り付け、スイッチを大型散光式警光灯と連動させること。

エ 車両フロントバンパー付近の左右に補助点滅灯（LED 式）を取り付け、スイッチを大型散光式警光灯と連動させること。

オ サイドフラッシャーランプ（補助方向指示器）を車両左右の有効な位置に取り付けること。

(5) 照明等

ア 車両ルーフサイドに、屋外作業用の作業灯（LED 式）を左右各 2 箇所取り付けすること。

イ 車両後面ドア内側の上部に、作業灯を取り付けること。なお、照射方向が自在に変更でき、点灯・消灯の切替えスイッチを取り付けること。

ウ 患者室には、傷病者照射灯及び調光機能付き蛍光照明（LED 式）を取り付け、救急隊員の活動に支障のない照度を確保し、患者室に必要なスイッチを取り付けること。

エ 運転室助手席上部に、角度が自由に換えられるマップランプを取り付けること。

（6）無線電話装置及びAVM等の通信機器

ア 無線電話装置及び AVM は消防組合が準備するものとし、取付けは消防組合指定の業者（以下「無線業者」という。）が行う。なお、取付け位置については納入者、消防組合及び無線業者の間で協議することとする。（配線及び患者室に取り付ける ON・OFF 切替えスイッチ付きの無線スピーカー以外の機器取付け費用は、消防組合が負担する。）

イ 消防用無線機の取付け位置は運転室で他の機器と緩衝しない位置とし、詳細については消防組合と協議の上、決定すること。

ウ 消防用無線機の送受話器を運転室及び患者室に送受話器用架台により取付けできるように配線すること。（取付け位置については別途協議。）

エ 電源コード、同軸ケーブル等については納入者が準備し、無線業者と調整のもと配線すること。

オ 患者室に ON・OFF 切替えスイッチ付の無線スピーカーを取り付けること。

カ 進行方向右側の患者室内で操作が容易な位置に携帯電話及び AVM の設置場所を確保すること。（携帯電話は消防組合が準備する。）

キ 無線電話装置用アンテナ

無線業者と協議の上、車体上部ルーフに他の機器等と緩衝しない場所へ無線電話装置用アンテナ配線をするものとし、アンテナ取付けは無線業者が行う。（アンテナの取付け費用は消防組合が負担する。）

（7）塗装等

ア 車両の塗装は白色とし、防錆処理及び清掃洗浄を完全に行い、上質の塗料で入念に吹き付け仕上げをすること。なお、車両外周に幅 120mm の赤帯カッティングシートの貼付けを施すこと。

イ 納入後 1 年以内の塗料の部分剥離、亀裂等が生じた場合は再塗装すること。

なお、納入後 3 年以内にボディー外板の穴あき及び錆が生じた場合、保証修理するものとし、その他詳細については別途協議するものとする。

ウ 車両には、次の文字を記入し、字体は指示のない限りゴシック体を基本とし、カッティングシートにてバランス良く施工すること。

（ア）ルーフ部「HIKARI F.D.EMS」 濃紺色、中抜きゴシック体

（イ）左右及び後面の赤帯内「光地区消防組合」 白色、丸ゴシック体

（ウ）前面の赤帯内「HIKARI F.D.EMS」 鏡文字 白色、丸ゴシック体

（エ）天井後部（対空標示）「光救 2」 縦書 1 文字 700mm 幅、赤色

（オ）前面及び後面（隊標示）「光救 2」 1 文字 100mm 幅、赤色、丸ゴシック体

（8）運転室内

- ア 隊員が、運転席から患者室に容易に移動できる構造とすること。
- イ 各スイッチ類は、指定のない限り運転室の助手席及び運転席から操作容易な位置に取り付け、それぞれのスイッチ、パイロットランプ、コンセント類には名称及び ON・OFF 等の表示をすること。（取付け位置については別途協議。）
- ウ 助手席から患者室が確認可能なインナーミラーを取り付けること。（2 段式ルームミラーでも可とする。）
- エ 運転に支障のない位置に A3 サイズ住宅地図等が数冊収納できる書類箱を取り付けること。
- オ 運転に支障のない有効な位置に ETC 車載器を取り付けること。

(9) 患者室

患者室は救急隊員の活動に支障のない空間を確保し、次のとおりとすること。

- ア 消防組合が準備する資器材（別表 2）が積載できるスペースを確保するとともに、当該資器材の機能を損なうことなく、安全かつ確実に積載でき、専用金具等を使用し、走行中の振動に対し、十分な防振防護措置をすること。また、特に指示のない限り、積載は側面等の活動に支障のない最も適した位置とすること。
- 置に最も適した位置とすること。
- イ 患者室に窓ガラスを有する場合は、そのガラスの下部から $1/2$ 以上を曇りガラス等にする。
- ウ 座席を次により設置すること。
 - （ア）メインストレッチャーの頭部側に、跳ね上げ式の後ろ向き 1 人掛座席（キャプテンシート）を取り付けること。
 - （イ）進行方向左側に 2 人以上が座れるハネ上げ式の横向き座席を取り付け、下部に収納ボックスを設けること。
 - （ウ）横向き座席の運転室側には、背もたれ付きの前向き 1 人掛席を取り付けること。
 - （エ）背もたれ付きの前向き 1 人掛席の下部に、酸素ボンベ（2 リットル）が 1 本固定できる金具を取り付けること。
 - （オ）各座席には、シートベルトを取り付けること。
- エ 天井及びスライドドア付近、車体後面ドア付近の有効な位置に、アシストグリップを取り付けることとし、車両後面ドア付近のアシストグリップは大型のものとすること。
- オ 見やすい位置にデジタル式電波時計を取り付けること。
- カ 活動に支障のない有効な位置に有蓋汚物処理箱を取り付けること。
- キ 照明等のスイッチは、1 箇所にまとめ、それぞれ名板等により表示を行うこと。
- ク 床は、平坦で水洗い可能な防水構造とし、薬品等により腐食しにくい材質とすること。
- ケ 天井の有効な位置に収納ネットを複数取り付けること。
- コ 有効な位置に手袋等の箱（2 式）を壁に固定するための装置を取り付けること。
- サ 有効な位置にホワイトボード（マグネット使用可能）を取り付けること。
- シ 有効な位置にペーパータオルホルダーを取り付けること。
- ス 有効な位置に液体消毒ボトル（角形 500ml）ホルダーを取り付けること。
- セ 有効な位置に輸液バッグ及び輸液ボトルが 2 本以上設置可能な輸液ホルダーを取り付け

- ること。
- ソ 有効な位置に消防組合が準備するスクープストレッチャー（FERNO 製モデル 65EXL）及びロングバックボード（FERNO 製モデル 2010）が収納できるスペースを確保し、当該資器材を固定できる措置を施すこと。
- タ 有効な位置に資器材収納庫を複数取り付け、うち 1 か所以上は大型資器材収納庫とし構造は次によること。
- （ア）堅牢かつ走行中の振動等による歪み、隙間及び異音等の発生がないこと。
- （イ）外面及び内面に危害を生じ又は収容物への損害を与える恐れのある鋭利な突起物等がないこと。
- （ウ）各扉及び引出しには、走行中の振動又は内容物の移動により開放しない構造とすること。
- （エ）資器材をベルトで固定する方法を用いる場合は、走行中の振動で縛着が簡単に外れない構造であること。
- （オ）資器材の出し入れが容易であること。
- チ 有効な位置に資器材収納棚を取り付けること。
- ツ 酸素吸入器を次により取り付けること。
- （ア）有効な位置に 2 連式の加湿流量計を取り付け、酸素ボンベからの高圧配管等は壁内に敷設すること。
- （イ）人工呼吸器やインハレーター等が使用できるよう、カップラー等による酸素取り出し口を 2 個以上取り付けること。
- テ 酸素ボンベ収納庫を次により取り付けること。
- （ア）酸素ボンベ（10 リットル）が 2 本収納できる構造とすること。
- （イ）活動に支障のない位置に取り付け、バルブの開閉及び残量が患者室から操作、確認（直接、間接を問わない。）ができること。
- ト 有効な位置にモニター類のコード等が容易に掛けられるようなフック等を複数取り付けること。
- ナ 換気装置を取り付けること。
- ニ 活動に支障のない位置に A3 サイズ住宅地図等が数冊収納できる書類箱を取り付けること。
- ヌ 消防組合が準備する自動車用粉末 6 型 ABC 消火器 1 本（日本ドライケミカル製 PAN-6AG）を活動に支障のない場所に固定できる固定器具を取り付けること。
- ネ メインストレッチャー付近で容易に脱着できる位置に耐荷重構造の輸液ポンプ装着用ポールを取り付けること。
- ノ 吸引器を取り付けることができる構造とし、次によること。
- （ア）消防組合が準備する定置式吸引器（新鋭工業製 WS-1400）を清掃等が容易な位置に取り付け、使用できる構造とすること。
- （イ）消防組合が準備する携帯式吸引器（レールダル社製 LSU4000）を容易に充電でき、活動に支障がない位置に取り付けることができる構造とすること。
- ハ 消防組合が準備する車載用ポータブル温冷蔵庫（ツインバード工業製 2 電源式ポータブル電子適温ボックス（HR-DB07 型））を設置できるスペースを設けること。

ヒ ストレッチャー防振架台等

消防組合が準備するメインストレッチャー（FERN0 製モデル 4080-S（ストレッチャーマーカーによる点検を行い、安全性に問題ないことを書面で確認できるもの。)) が積載でき、次の機能を有すること。

- （ア）防振架台は、車両の走行による振動、揺れを十分吸収できる性能を有すること。
- （イ）左右スライド機能を有し、スライドは任意の位置で固定でき、車両後面ドア側からも操作できること。
- （ウ）走行中に振動、移動を生じないような構造で、安全確実にストレッチャーを固定積載できる装置を備えること。また、ストレッチャーの固定を容易に解除できること。
- （エ）胸骨圧迫等の処置を行うために、架台の防振機能を解除できること。
- （オ）防振架台には、ヘッドパットを取り付けること。
- （カ）ストレッチャーの搬入が容易に行える構造とすること。

別表1 附属品及び取付品

附属品			
No.	品名	数量	規格・内容
1	泥よけ	一式	
2	スタッドレスタイヤ	4本	ホイール付き・国産
3	スペアタイヤ	1本	ホイール付き・国産
4	フロアマット	一式	
5	整備工具	一式	標準工具
取付品			
1	アースボンディング	一式	
2	訓練旗立て	一式	旗立てはネジ固定式 車両左側
3	大型サイドミラー	一式	左右
4	補助ミラー	1個	助手席側
5	昇降用リアステップ	一式	保護カバー付き 傷付防止・滑り止め性能付き
6	消防章	1個	φ150・車両前面中央部
7	レスキューセット	一式	○バール ○万能斧 (PARATECH 製 PRY AXE) ○グラスカッター(グラスマスター) ○シートベルトカッター付きグラスハンマー (丸愛産業製 レスキューマンⅢ)
8	サイドバイザー	一式	左右両側フロントドア
9	バックブザー	一式	音声式、解除スイッチ付
10	ハイマウントストップランプ	一式	後面
11	カーナビゲーション	一式	後退時バックアイカメラ連動・VICS 機能付き (バックアイカメラ取付けを含む。)
12	ヘッドライト	一式	ディスチャージ等高輝度式
13	フォグランプ	一式	前面左右
14	点滅式停止表示灯	一式	車両後面ドア付近
15	路肩灯	一式	スモールライト連動・ガード付・運転室にメインスイッチ
16	冷暖房装置	一式	運転室・患者室
17	ドア開放警報装置	一式	「P」レンジ以外で運転席ドア開放時に警報音
18	全自動電子バッテリー管理器	一式	ずぼら充電器 七宝電子工業 AS-12PX
19	外部電源入力装置	一式	マグネット式・警告装置 (専用ケーブルを除く。)
20	電圧変換用インバーター	一式	患者室・100V 変換
21	コンセント (予備含む。)	一式	患者室・DC12V・AC100V
22	アイドルアップ装置	一式	自動式

23	電子サイレン	一式	音声内蔵式（大阪サイレン製 OPS-5101VQ 又は同等品）
24	ウー音スイッチ	一式	運転席・助手席（切替スイッチ式）
25	メッセージスイッチ	一式	運転室
26	赤色警光灯・補助点滅灯	一式	○大型散光式警光灯（LED 式） 前面上部ルーフ・後面上部ルーフの左右 ○補助点滅灯（LED 式） 後部ドア上部左右・フロントバンパー付近左右
27	サイドフラッシャーランプ	一式	左右の有効な位置
28	屋外作業灯	一式	LED 式、左右各 2 箇所
29	室内蛍光灯	一式	患者室（スイッチは患者室）
30	傷病者照射灯	一式	患者室（スイッチは患者室）
31	マップランプ	一個	運転室助手席上部
32	無線スピーカー	一式	患者室 ON・OFF 切替スイッチ付
33	消防用無線ケーブル配線	一式	デジタル
34	赤帯	一式	仕様書[第 2 章 3(7) 塗装等]による。
35	車両文字	一式	仕様書[第 2 章 3(7) 塗装等]による。
36	インナーミラー	1 個	運転室（2 段式ルームミラー可）
37	書類箱	2 個	運転室・患者室 各 1 個（A3 サイズ）
38	ETC 車載器	一式	セットアップを含む
39	曇りガラス	一式	仕様書[第 2 章 3(9) 患者室]による。
40	1 人掛座席（キャプテンシート）	一式	後ろ向き・跳ね上げ式
41	横向き座席	一式	横向き・跳ね上げ式・下部収納庫・運転室側は背もたれシート
42	資器材等固定金具（専用架台でも可とする。）	一式	○患者監視装置（フィリップス社製 DFM100 が容易に脱着可能） ○人工呼吸器（コーケンメディカル社製 ANSWER が容易に脱着可能）
43	背もたれ付きの前向き 1 人掛席	一式	下部に酸素ボンベ（2 リットル）1 本を固定可能な金具の取付け
44	アシストグリップ	一式	患者室（天井・スライドドア付近・バックドア付近（大型））
45	デジタル式電波時計	1 個	患者室
46	有蓋汚物処理箱	1 個	患者室
47	収納ネット	複数	患者室・天井
48	ホワイトボード	1 枚	患者室・マグネット使用可能
49	ペーパータオルホルダー	1 個	患者室
50	液体消毒ボトルホルダー	1 個	患者室・角形 500ml
51	輸液ホルダー	複数	患者室・輸液ボトル 2 本以上設置可
52	資器材収納庫	複数	患者室・複数取付け・1 か所以上は大型資器材収納庫

53	資器材収納棚	複数	患者室
54	酸素ボンベ収納庫	一式	患者室・10 リットル用ボンベ 2 本収納可
55	フック	複数	患者室・コードフック
56	換気装置	一式	患者室
57	酸素吸入器	2 個	車載式酸素減圧弁（ヨークバルブ仕様）
		一式	患者室加湿流量計（オキシパック型 OX-FDX 又は同等品） 配管ホース・延長ホース
58	手袋等の箱の固定装置	2 個	患者室
59	輸液ポンプ装着用ポール	1 本	患者室
60	ストレッチャー防振架台	一式	患者室

※メーカー公表の標準取付品及び附属品は、全て納入すること。ただし、本仕様書で指定しているものと重複するものについては、除くことができる。

別表 2 消防組合が準備する資器材等

No.	品名	数量	規格・内容
1	訓練旗ポール	1 本	φ 25mm
2	患者監視装置	一式	フィリップス社製 DFM100
3	携帯式吸引器	1 基	レールダル社製 LSU4000
4	定置式吸引器	1 基	新鋭工業製 WS-1400
5	自動式人工呼吸器	一式	コーケンメディカル社製 ANSWER
6	バックボード	一式	FERNO 製モデル 2010
7	スクープストレッチャー	一式	FERNO 製モデル 65EXL
8	メインストレッチャー	一式	FERNO 製モデル 4080-S
9	携帯電話	一式	
10	業務用消火器	1 器	日本ドライケミカル（株）製 自動車用 ABC 粉末 6 型消火器（PAN-6AG）
11	車載用ポータブル温冷蔵庫	1 器	ツインバード工業製 2 電源式ポータブル 電子適温ボックス（HR-DB07 型）
12	外部電源入力用専用ケーブル	1 本	パナソニック製 WCH1720